

自分のイメージに合わせ、リズムによって、声とおどりの表現をつくっていく子ども

— 1年音楽『たんとたん』で、はさんでつくろう おんがくのサンドイッチ』の実践から —

1. 単元の構想

「忍者になって歩いてごらん。」と言うと「サササー」と言いながら歩き、アニメのヒーローになって戦いながら「ダダダダ ザースパッ」などつぶやいている子どもたち。1年生の子どもたちは、そのものになりきり、それを体や声で表現することが大好きである。本学級の子どもたちも、音楽の時間には「かたつむり」や「けんぱ」などの歌に合わせて、かたつむりやうさぎになりきり、身体表現をしながら歌っている。また、歌詞の「ハレルヤ」に合わせて、踊りながら歌うなど、音楽の感じに合わせて踊りながら歌っている子もいる。

1学期の音楽では、音楽に合わせて歩いたり、友達といっしょに踊ったりしながら、リズムに乗る楽しさを味わうことができるようになってきた。授業のはじめと終わりにもリズム模倣を行ってから、あいさつをしている。その中で、日直がリードしてリズムを表現するなど、友だちのリズムをまねる楽しさも感じてきている。また、「たん たん たんのリズムによって」という学習では、2拍子の拍の流れを感じながら、歌ったり踊ったりリズム模倣をしたりする活動にも取り組み、2拍×2小節というリズムのフレーズも感じるようになってきた。

本題材では、子どもたち自身が、自分の声を使って、イメージしたものを即興的に表現していく活動に取り組みせたいと考えた。子どもたちが、声のさまざまな表現をつくり出したり、友だちのつくった表現に接したりすることで、自分にとって、最も身近にある「声」の面白さに気付き、声による表現の幅を広げてほしいと願ったからである。

音楽づくりは、子どもが様々な音と、新鮮な気持ちをもってかかわり、音のおもしろさに気付いたりそれらをつなげたり重ねたりして、自分の思いをもとに、音を音楽へと構成する活動である。この活動は、まず、音を聴いて気付いたことをもとに、どの音を選ぶか、どのように表現するかを自分で考え、判断すると言う意味から、思考力・判断力と直接関わってくる。また、自分が考え判断したり相手に伝えたりするためには、「表現する」という活動が不可欠であり、表現する力が必要となる。

さらに1年生1学期の子どもたちの様子を考えると、できたものからどんどん発表し、模倣し合う活動を通して、友だちの表現を聴きながら考え、発表しながら気付き、考えるというように、思考、判断する活動と表現する活動を分けず、表現し合いながら思考、判断していけるようにする方が、より楽しく取り組めると考える。ただし、その過程に於いては、より息の長い思考する取り組みへとつながるように一人ひとりが考える時間も短時間設定することで、1年生なりに自分で試行錯誤できるようにすることも大切にしたい。

そこで、前述した子どもたちの様子も考慮し、拍の流れを感じながらリズムのフレーズを感じ、交替で踊りながら声で表現したり、それを模倣したりする次のような音楽あそびをさせる場を設定した。

【声とおどりのリズムサンドイッチ】

$\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪	声とおどり A	$\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪	Aの模倣	$\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪	声とおどり B	$\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪	Bの模倣
(教師)	(A児)	(教師)	(全員)	(教師)	(B児)	(教師)	(全員)

子どもがつくるものとして、声におどりを加えることで、楽しさが増し、より多様な声による表現が生まれるのではないかと、さらに、一人のつくった声とおどりの表現を他の全員が模倣できるようにすることで、一人の表現を全体に広げ、一人ひとりが工夫する手がかりにしたり一人ひとりの表現を認めたりできるようにしたいと考えた。

自分からリズムをつくり、声による表現の仕方を工夫するこのような経験は、今後の音楽づくりや創作、加えて、歌唱などの活動においても、自分の思いをリズムや歌声で表現しようとする活動への興味や意欲の基盤となると考える。また、くり返しながらつなげていくという構成で、音楽あそびをする経験は、今後の学習にも生かされるのではないかと期待している。

指導にあたっては、教師がつくった右のような「サンドイッチのうた」に合わせて、リズムや声とおどりの音楽づくりを行えるようにし、のびのびと歌いながら、楽しく音楽づくりができるようにする。実際の指導にあたって配慮したことは次のようなことである。

サンドイッチのうた

○まず、「リズムのサンドイッチやさん」の活動を行わせ、「サンドイッチのうた」を歌ったり2拍子の拍の流れを感じて「サンドイッチやさん」の活動をしたりに慣れるようにする。

- 声とおどりをつくることに抵抗の大きな子もいると考えられるため、はじめは友だちの声とおどりをまねする活動にくり返し取り組ませ、少しずつ自分でもつくれるようにする。
- サンドイッチにはさむ物を実際にイメージしながら声とおどりを考えていくことで、声とおどりをつくる時の手がかりとする。
- 友だちのつくった声とおどりを模倣し合う活動では、子どもが、2小節分の声とおどりを表現すれば声とおどりがまだ続いていても $\frac{2}{4}$ ♩ ♩ | ♩ ♩ || のリズムを教師が入れることで、2拍×2小節という拍の流れをしっかり意識させ、リズムよく、音楽づくりが進むようにする。
- 学習のふり返りとして、一人ひとりが楽しかったことやうれしかったことを絵や言葉で表現する時間を無理のない程度設定し、子どもの学びをとらえ、次時の活動に生かす。

2. 題材計画

(1) 活動展開計画 (全4時間)

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
1	リズムのサンドイッチで拍の流れを感じよう。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「サンドイッチのうた」を歌う。 ・リズムのサンドイッチを歌に合わせてつくる。
2	声とおどりのサンドイッチにチャレンジしよう	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「サンドイッチのうた」を歌う。 ・学習のめあてを知る。 ・サンドイッチにはさむ声とおどりをつくる。
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・サンドイッチに声とおどりをはさんだり、友だちの声とおどりをまねし合ったりする。 ・サンドイッチにはさむ声とおどりをもっといっぱいつくる。
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・もっといろいろな声とおどりをつくって、まねし合う。

(2) 評価計画

次	時	関心・意欲・態度	感受・表現の工夫	表現の技能	思考力・判断力・表現力
1	1	リズムサンドイッチの活動に進んで取り組んでいる。	リズムを表現するときに、拍の流れを感じている。		拍の流れを感じながらリズムをつくっている。(思考力・判断力)
2	2	声とおどりのサンド			

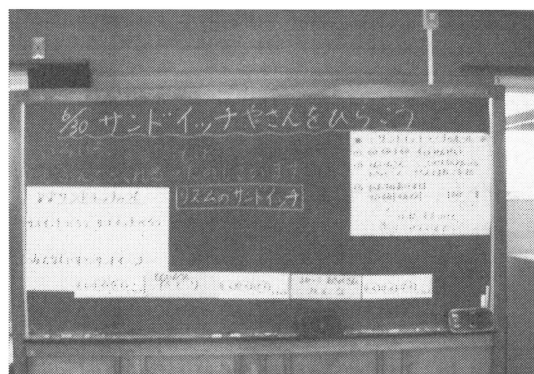
	イッチをつくる活動に意欲をもつ。			
3		拍の流れを感じながら声とおどりで表現しようとしている。	拍の流れを感じながら、4拍分の踊りと声を表現している。	拍の流れを感じながら声とおどりで表現しようとしている。(思考力・判断力) 拍の流れを感じながら、4拍分の声とおどりのまねをしている。(表現力)
4		表現をもっと、おもしろいものになるように工夫している。	工夫したいろいろな声とおどりを拍の流れを感じながら表現している。	表現を、もっとおもしろいものになるように工夫している。(思考力・判断力) 工夫したいろいろな声とおどりを表現している。(表現力)

※「鑑賞の能力」については、評価規準は設定しない。

3. 授業の実際

(1) リズムでサンドイッチやさんをひらく子ども

まず、「サンドイッチのうた」をみんなで歌った後、本時のめあて「リズムでサンドイッチをつくろう」を提示した。しかし、子どもたちに「みんなが行きたいと思うサンドイッチやさんはどんなサンドイッチやさんかな。」と尋ねたところ口々に「たまご、ジャム、ハム……」とはさむものの名前を言い出した。そこで教師が、「いろいろなサンドイッチがあるといいだね。」とまとめ、めあてに「いろいろな」を付け加えた。また、子どもから「自分たちでつくれるサンドイッチやさん。だってね、自分たちでつくった方がおいしく食べられそうだし、いろいろできて楽しそう。」という意見が出てきた。そこで、「今日は、リズムでサンドイッチをつくるよ。」と呼びかけ、サンドイッチづくりのルールを確かめた後、リズムのサンドイッチづくりを始めた。



〈この時間の板書〉

子どもたちは進んで手を挙げ、次々に前に出てリズムをたたいた。しかし、これまでリズムの学習では「模倣」が中心だったため、おしり、頭等、たたく場所を変えても、リズムは $\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪と、教師のまねをする子が多かった。そこで、「パンと同じじゃ、パンの間にパンをはさんでいることになるよ。パンじゃないものはさめる人。」と呼びかけた。その結果 $\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪♪♪ $\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪♪♪ $\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪♪♪ $\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪♪♪など、いろいろなリズムを表現することができた。ふりかえりでは、「サンドイッチのうたをすぐに歌えてよかった。」「手をたたくのがおもしろかった。」など、自分の活動をふりかえるものがほとんどだったが、子どもたちは、「サンドイッチのうた」に合わせて、リズムのサンドイッチをつくる活動を楽しみ、意欲的に活動することができた。そこでまず、がんばりや楽しかったことを発表させた後、教師自身のふりかえりとして、『タタータタウン ($\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪♪♪)』みたいにはやいのや、『タンウンタンウン ($\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪♪♪)』みたいにゆっくりのや、手頭おしり ($\frac{2}{4}$ ♪(手)♪(頭)♪(おしり)♪)』みたいに違うところをたたくのもお気に入りです。」と子どものつくりリズムに目を向けたふりかえりを言ってこの時間を終わった。

(2) サンドイッチにはさむもののイメージをもとに踊りと声で表現する子ども

【レタスをはさもう】

第2時間目からは、おどりと声でサンドイッチをつくる活動に取り組んだ。この時間には「こえとおどりはさんでサンドイッチやさんをひらこう」というめあてを提示した。ここでのルールとして「はさむものの名前は言わない」というルールをつけ加え、「シューチュッ」など教師がつくった声とおどりによる表現を模倣する活動をした後、子どもたちが、順に前に出て、声とおどりによるサンドイッチづくりに挑戦した。しかし、前時にリズムでのサンドイッチづくりをしたため、本時もその活動から抜

け出すことができず、 $\frac{2}{4}$ ♩ ♩ | ♩ ♩ || のリズム打ちをはさむ子が多かった。そこで、友だちがつくったサンドイッチについてふりかえる時間をつくった。

- T 1 おいしかった？ C (口々に) おいしかった。
 T 2 お友だちがはさんだ声とおどりについて、なんか言いたいことのある人いる？
 C 1 ○○さんの声がなかったから、あんまりおいしくなかった。
 T 3 小さかったから聞こえなかったかな。でも、声がないとおいしくないんだね。
 C 2 みんな3回たたいてたからパンと同じ。4回だとか5回だったらいい。
 (C 3 「レタスバリバリバリ」とつぶやく。)
 C 4 ○○くんのがおいしいかなとおもってたらおしりをたたいたからおいしくなかった。
 T 4 おいしいサンドイッチにするのに、なにをはさむといいかなあ。さっきC 4 君が言ったみたいにレタスだったら「バリバリ」とか。たまごやハムだったらどうなるかな。

この後、自由に考える時間をとってから、再度発表させた。ここでも、仮面ライダーのまねやリズム打ちなどが多く、なかなか声とおどりで表現するまでに至らなかったが、聴いていた子どもたちの中に「なーにかな?」「なーにかな?」と歌う子どもがいたため、どういうことか尋ねてみた。すると「だって、何をはさんでいるか分からないよ。」と答えた。そこで、先ほどのC 3 児の「レタス」の表現を再度紹介し、はさむものを「レタス」に絞って「レタス」だと分かる表現を考えさせた。その結果、次のような表現が生まれた。

$\frac{2}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ || $\frac{2}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ || $\frac{2}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ||

パ リ ッ パ リ ッ パ リ ッ バ リ バ リ バ リ バ リ ブ ワ ッ シ ャ キ シ ャ キ シ ャ キ シ ャ キ シ ャ キ

【たまご、やきそば、ジャム&マーガリンをはさもう】

前時の取り組みの様子から、はさむもののイメージがはっきりしないと子どもたちが考えにくいということがわかったため、3時間目は、「たまご」「やきそば」「ジャム&マーガリン」の3種類を表現することにした。



〈友だちと表現をまねし合う子ども〉



〈友だちといっしょに表現を工夫する子ども〉

この3種類にしたのは、

子どもに親しみがあり、前の時間に子どもたちがはさみたいものとしてあげていたこと、さらに、それぞれの感じが違い、多様な表現が生まれそうだと考えたからである。子どもたちは、前時から「レタスだけじゃおいしくない」「もっといろんなものをはさみたい」という願いをもっていた。そこで、本時のめあてを「もっとたくさんえとおどりははさんで、おいしくしよう」と設定し、「たまご」「やきそば」「ジャム&マーガリン」の順で表現をつくっていった。この中で、焼きそばでは、「友だちといっしょにつくっていいですか。」と言う子どもが現れた。これらの子どもたちは、たくさんの麺が絡まっている様子を体で表現していた。子どもたちがつくった表現は、次のようなものであるが、子どもたちは、自分の表現に合うように声の工夫もすることができた。

【たまご】



フワ フワ フワ

【やきそば】



ツル ツル ド カ ン

【ジャム&マーガリン】



ジュ ジュ ッ ッ



パリ ッ パリ ド カーン



ツル ツル ツル ツル ツル ン



プジュ ン ジュ ッ

それぞれの表現をまねし合った後、子どもたちに「おいしかったかどうか」を尋ねた。ほとんどの子が「おいしかった」と答えたため、「どんなところがおいしかったか」と尋ねてみたが、子どもたちは「〇〇くんのおいしかった（おもしろかった）」「△△（ふわふわなど）がおいしかった（おもしろかった）」というような感想を発表し、感じたことを詳しく言葉で表現するには至らなかった。

【もっといろいろはさもう、みんながはっぴょうしよう】

前の時間のふり返しには、お気に入りのサンドイッチとして「ハムとたまご」や「トマト、たまご、肉」など、複数の具をはさみたい子が多かった。そこで、最後の時間は、「いろいろなこえ、いろいろなはやさでさいこうにおいしいサンドイッチをつくろう」というめあてで一人ひとりが、たくさんの具を表現する活動に取り組みさせた。しかし、一人で何種類もの具をつぎつぎと表現するのは難しかったため、途中から、友だちといっしょに表現することも認め、全員が、サンドイッチやさんになろうというめあても加えて取り組ませて授業を終えた。

ふたりでやるとどんどんおいしくなるよ。(A児)

〇〇くんのさいごの「ぶあ」がおいしかったよ。2回はっぴょうをして、たのしかったよ。たくさん、サンドイッチがたべられてうれしかったよ。(B児)

エビマヨのこれをして、みんなにしてももらってうれしかった。(テレた) (C児)

えびまよをつつんだり、はむやたまごあんどけちゃっぷをつつんだりするのがいちばんたのしかったよ。こえは、ぷりぷりとかちゅーとかするのがいちばんいっばん、すごくおいしかったし、じぶんでもおいしいとおもったよ。(D児)

いろいろなこえをみつけたよ。〇〇くんの「しゅーあっ」というのがおもしろかったよ。わたしはてをあげなかったけど、ほとんどの人がてをあげてちゃんとおどったりうたったりして、えらいなあとおもったから、いっしょうけんめいまいにちかんがえたけど、おもいつかなくて、だれかにきこうかとおもったけど、じぶんのちからでがんばっててをあげたよ。きいたらいろいろなこえがして、げんきがでてきたよ。これからぜったいにてをあげたいな。みんなげんきでおどったりうたったりしてわくわくしたよ。(E児)

これらは、最後の授業終了後に、子どもたちが書いたふりかえりである。このふりかえりから分かるように、子どもたちは「声とおどりのもつ楽しさ」「友だちといっしょに表現する楽しさ」「友だちに聴

いてもらったり、まねしてもらったりする喜び」などを感じながら、それぞれの表現のよさを感じ、自分自身の表現の工夫も意欲的に行うことができた。さらに、なかなか表現することができず、最後の最後にやっと発表したE児のふり返りからは、友だちの表現のよさに加えて友だちのがんばりも認めながら、自分自身もがんばったという、子どもの伸びようとする姿勢が強く感じられた。

4. 実践を終えて

この実践の中で、子どもたちは、「サンドイッチのうた」を大きな声で歌い、表現したり模倣したりする活動に、くり返し意欲的に楽しく取り組むことができた。そのような姿を生み出した要因としては、「サンドイッチのうた」の存在、リズムをたたきたいこ、発表するステージの存在など、さまざまなことが考えられる。その中で特に、思考力・判断力・表現力の育成に関わって有効だったと考える手だてについて、かかわりを中心にまとめてみる。

(1) 「互いにまねし合う」というかかわりについて

「サンドイッチのうた」では、歌に続けて、サンドイッチやさん（代表の子）が、つくったリズムや声とおどりを表現し（売り）それを、お客さん（他の子）が模倣する（買う、食べる）という活動を設定した。子どもたちは、「まねをする」というめあてがあるために真剣に聴き、まねをすることで自分とは違う表現にもチャレンジすることができた。そのかかわりの中で、「友だちにまねをしてもらって喜び」や「まねをすることで、たくさん表現できる喜び」を感じることができた。この喜びが、「もっとつくりたい」「もっとおいしいをつくりたい」という意欲を生み出していったのだと思う。

さらに、まねをする活動後の感想を発表する場では、「声がないからあんまりおいしくない」「パンと同じだ」「いちばんおいしかった」などの言葉で、友だちの表現についての気づきを伝えることができた。この活動によって、一人ひとりの気づきをより確かなものにしたり、全体に広げたりすることができ、その後の子どもたちの活動に生かされていったと考える。

(2) 共通のイメージをもたせたことについて

本題材では、「サンドイッチやさん」というような、子どもたちに身近なものを題材にし、子どもの姿をとらえながら、「レタス」「やきそば」など、共通のイメージを与えて、思考、判断ができるようにしていった。このことは、子どもたちが表現を工夫する手がかりを見つけやすく、友だちの表現を参考にしながら、（友だちと表現の模倣を介してかかわりながら）自分なりの表現をつくり出していくのに有効であった。

(3) 友だちとペアでつくったことについて

「やきそば」の表現を工夫しているときに、子どもたちから「友だちといっしょにつくっていいですか。」という声が上がった。1年生の1学期という時期で、まだ「相談する」という学習経験が少なく、一人で作った方が次々とリズムよく発表できると考えて、この題材では、基本的に一人で作るということにしていた。しかし、「一緒につくりたい」という必要感のある子にとっては、友だちとペアでつくることにより、工夫の幅が広がったり、自信をもって表現したりすることにつながった。

以上、思考力・判断力・表現力の育成に有効だと思われる手だてについてまとめてみた。どれにも共通していえることは、子どもが「もっとおいしいものをつくりたい」「友だちとちがうものをつくりたい」という願いをもつことが、より意欲的な活動をつくり出し、思考力、判断力、表現力を育成するために最も大切で、そのために、教師の適切な手立てが必要であったということである。題材の流れや教材については、第1次でリズムをつくってはさんだため、第2次の声とおどりの表現も、そこからなかなか離れることができなかつたことや、教師のたたき $\frac{2}{4}$ ♩ ♩ | ♩ ♩ || のリズムにつなげて、子どもが表現するようにしたことで、そのリズムを変えて表現することが難しくなり、子どもが思考や判断を深めることの妨げになったことなどの課題も見つかった。

今回の実践をもとに、発達段階をふまえながら、音楽を構成したり表現を深めたりして音楽をつくっていく、さらに息の長い取り組みになるように研究を積み重ねて行きたい。（文責 赤木 寛子）